

「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」  
実社会対応プログラム最終評価結果表

|  |  |
|--|--|
| 課題   | 制度、文化、公共心と経済社会の相互連関                      |
| 研究テーマ名   | 制度が文化を通じて人々の社会規範や公共心に与える影響：実験室実験とフィールド実験 |
| 研究代表者  | 佐々木 勝                                    |
| 所属機関・部局・職  | 大阪大学・経済学研究科・教授                           |
| 研究成果の総合評点：B  |  |
| 研究成果の評価に係る所見   |  |
| <p>文化や公共心という壮大なテーマに野心的に取り組み、一定の成果を得た点は評価できる。しかし、実験室実験とフィールド実験との関連が明確ではなく、期待されたような相乗効果が生まれたとはいえない。</p> <p>また、社会規範や公共心を定量的に把握し、その決定要因を明らかにすることはとても重要な課題だが、これらの概念に対する理解がやや表層的であり、実験のデザインが適切であったかどうか疑問が残る。</p> <p>今回の成果をファーストステップとして、さらなる研究の展開が望まれる。</p> |  |

※ 「研究成果の総合評点」に対する標語は下記のとおり。

- S. 研究目的に照らして、期待以上の成果があった
- A. 研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
- B. 研究目的に照らして、十分ではなかったが一応の成果があった
- C. 研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い